

太陽光発電の導入可能量拡大等に向けた技術開発事業

令和6年度概算要求額 33億円（31億円）

資源エネルギー庁

省エネルギー・新エネルギー部

新エネルギー課

事業の内容

事業目的

2050年のカーボンニュートラル実現に向け、太陽光発電設備の信頼性・安全確保、資源の再利用化を可能とするリサイクル技術の開発、出力の変動を高度に予測するための発電量予測技術、系統影響を緩和する技術の開発、また、太陽電池の更なる導入拡大を図るための高効率化や低コスト化等を行い、太陽光発電の長期安定電源化に資することを目的とする。

事業概要

本事業は、太陽光発電の長期安定電源化に資するため、以下の事業を実施する。

（1）太陽光発電の導入可能量拡大に向けた技術開発

太陽電池の更なる高付加価値化や高度化に資する技術の確立を目指し、タンデム型の積層技術の開発や超高効率太陽電池の低コスト化に必要な装置開発等を行う。

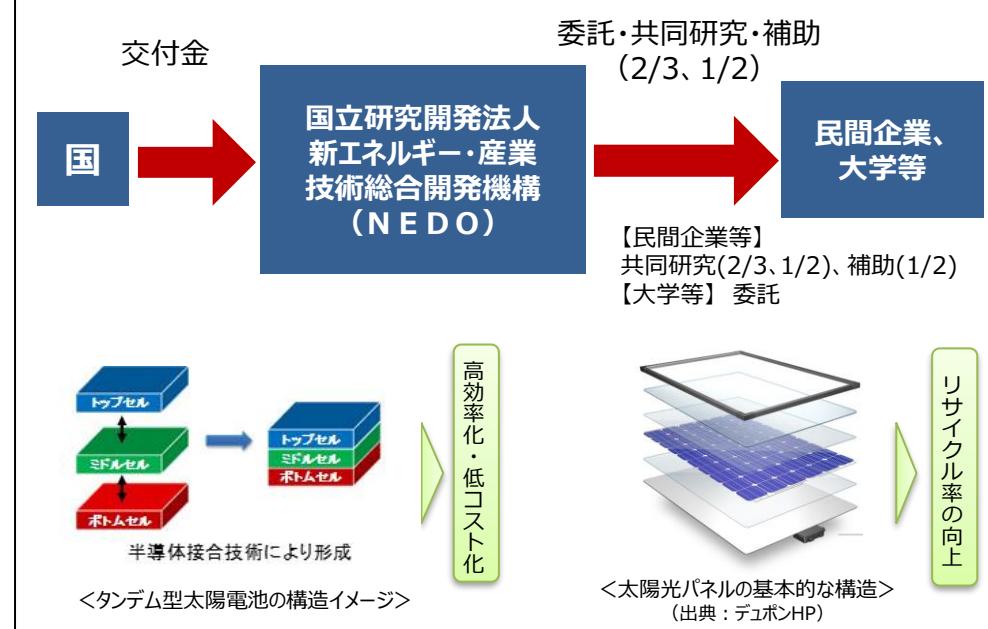
（2）信頼性・安全性確保、マテリアルリサイクル技術の開発等

信頼性・安全性確保のためのガイドライン策定や太陽光モジュールのリサイクル技術、太陽光発電の発電量の予測技術等の開発を行う。

（3）系統影響緩和のための技術実証等

太陽光発電による系統影響を緩和するため、太陽光発電の出力変動を踏まえて調整力として活用できるような制御技術の開発を行う。

事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）



成果目標

令和2年度から令和6年度までの5年間の事業であり、太陽光発電の長期安定電源化や導入可能量の大幅拡大に資する6件の技術の確立を目指す。